

平成25年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT25052 【プログラム名】 本を残す 本を伝える ～書籍の保存と修復



開催日：平成25年7月15日(月・海の日)
実施機関：一橋大学
(実施場所) (社会科学古典資料センター)
実施代表者：山崎 耕一
(所属・職名) (社会科学古典資料センター・教授)
受講生：中学生11名
高校生5名
関連URL：<http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/hirameki.html>

【実施内容】

■受講生にわかりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

本事業のもとになっている科学研究費採択課題は、「メンガー『国民学原理』初版特製本における書き込みの復刻とその内容分析」(課題番号14530004)および「西洋社会科学古典資料の書誌学的調査に基づく印刷地推定法に関する実証的研究」(課題番号23330066)であるが、細かい内容に立ち入って説明するよりも、その基礎にある資料保存の考え方を伝え、学習や研究に対する好奇心を惹起することを目的とし、以下の点に留意した。

1. 実物による体験を重視した

- ①本に囲まれた環境を体感できるよう、図書室(社会科学古典資料センター)を会場とした。普段は立ち入れない貴重書庫内で西洋社会科学古典書籍等の紹介を行うことで、大学の専門図書館のアカデミックな雰囲気を体感してもらうと共に、保存環境維持のためどのような配慮をしているかを実際に見学できるようにした。
- ②あらかじめ数種類の羊皮紙を用意し、実際に触ってもらい、違いを実感してもらった。
- ③社会科学古典資料センターに附設されている保存修復工房で実演および実習を行うことにより、資料保存の理念と実際を実地に体験できるようにした。実演および実習指導には、普段から保存活動に携わっている工房職員に活躍してもらった。

2. 資料や教材を充実させた

- ①予習だけではなく後日の復習にも役立ててもらえるよう、あらかじめB4大16ページのパンフレットを作成し、送付した。
- ②実習で作成したマーブル紙表紙のノートをそのままプレゼントした。ノートの作り方をパンフレットで詳しく解説した。
- ③広報用の葉や修了証を、資料保存用に用いられる特殊な中性紙で作成し、持ち帰ってもらった。

■当日のスケジュール

(午前の部)	(午後の部)	
9:00-9:30	13:30-14:00	受付(社会科学古典資料センター集合)
9:30-9:50	14:00-14:20	開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)
9:50-10:30	14:20-15:00	講義(センター書庫見学、資料紹介)
10:30-10:40	15:00-15:10	休憩
10:40-12:00	15:10-16:30	実習(修復工房の見学、ページ修理と簡易製本)
12:00-12:30	16:30-17:00	修了式(ブックマイスター号授与)・懇談会(茶菓)・アンケート記入
12:30	17:00	終了・解散

※午前の部と午後の部は同一内容なので、どちらかを選んで参加。

■実施の様子

プログラムは貴重書室のある社会科学古典資料センターを主会場として開催した。会場まで迷わないよう、大学正門と会場前にポスターを掲示した。このポスターは、事前の広報用に近隣の駅にも掲示してもらった。



①事前に準備したパンフレット、葉、クリアフォルダ、修了証書



②集合場所では本がお出迎え



③保存や製本に関する本を並べました



④今回は午前の部、午後の部の2回開催のため、慌しくスタート



⑤本日のスタッフの紹介



⑥貴重書見学のため書庫へ。清浄な環境維持のため、入室前にスリッパに履き替える



⑦実施分担者の床井による説明がスタート



⑧書庫での説明には保護者の方にもご参加いただきました



⑨説明も熱を帯びる



⑩次は様々な道具が設けられた工房で、説明と実演



⑪修復の道具に囲まれながら、実演を見学します



⑫この後はいよいよ実習です



⑬破れたページを和紙としょうふ糊で修繕します



⑭皆、真剣



⑮最後はノート作成。表紙に使うマーブル紙を選びます

